



日本医療マネジメント学会 News Letter

第91号 2023年6月1日発行
 発行 特定非営利活動法人
 日本医療マネジメント学会事務局
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町1-1
 大樹生命熊本ビル3階
 TEL 096-359-9099 FAX 096-359-1606
 E-mail jhm@space.ocn.ne.jp
 URL <http://jhm.umin.jp/>

第25回 日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ(第5報)

『病院医療の展望』～「パンデミック・災害とBCP」から「求められる医療」へ～



第25回 日本医療マネジメント学会学術総会
 会長 山本 登
 (横浜メディカルグループ
 菊名記念病院 理事長)

この度、第25回日本医療マネジメント学会学術総会を2023年6月23日(金)・24日(土)の2日間にわたり、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)に於いて開催させていただくことになりました。関東での開催は久しぶりで、25回の節目でもあることから、皆様方のご期待に応え、充実した学術総会となるよう、様々なテーマを取り上げさせて戴きました。

世の中がWITH CORONAへとシフトする中で本学術総会も基本的感染対策には十分留意しつつも、会員が一堂に会して議論を深められる集合形式とし、懇親会も復活して交流の場を提供する事と致しました。(ご参加の皆様には個人での十分な感染対策へのご協力をお願い申し上げます。)

パンデミックでは多くの医療機関がクラスター・院内感染を経験しましたが、加えて近年は地球温暖化の影響で気候変動が予測を超えた災害をもたらし、医療機関も壊滅的な影響を受けることが稀有では無く、地震災害の際に大きな影響をもたらす活断層は全国各地に網の目の様に存在しており、これらは例え避け得ない事であっても、影響を最小限にして、いち早く本来の病院機能を復活出来る様に準備しておくこと(BCP)は、社会的使命を果たすためには最重要課題であり、学術総会テーマの一部とし、メインシンポジウムとしても取り上げさせて戴きました。

一方コロナ禍は受療行動の変容をもたらし、結果として疾病構造も変化しつつあり、超高齢社会、多死社会、人口減へと進みつつある我が国においては、コロナ前の状態の維持・継続で良いのか、各々の医療機関が自らの「やりたい医療」を推し進めていて良いのか、それとも地域社会において「求められる医療」に呼応す

るべきなのか、公的・私的の役割分担はどの様に考えるべきか、現在進められている地域医療構想の策定にはこれ等や受療者側の視点は反映されているのか、等々、様々な観点から本音で議論して参りたいと思います。

病院医療にとってDX: Digital transformationの導入は不可欠の物になりつつありますが、誰のためのDXなのか、目的、真の受益者は誰なのか、AIやロボット技術、電子カルテ・PACS等の規格統一の問題も含めて議論を深め、基本的な事柄の再確認から始め、将来への展望までを示して戴ければと思います。

働き方改革の病院医療への影響を正・負の側面から検討し、ワークライフバランス、満足度向上に寄与するのか、加えて人手不足の中でのタスクシフト・シェアの問題点を様々な職種の立場から議論を深めたいと思います。この他にACPと倫理、認知症の問題、メンタルヘルスに関しても取り上げ、更に今回は回復期・慢性期病院の立場から見た急性期との連携における多様な、特にコロナ禍で露呈した数々の問題点に関しても議論して参りたいと思います。

SDGs: Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標に関しては運営理念・経済性との整合性を図りつつ進めるべきと考えますが、膨大な課題の全てにはとても対応できないため、本学術総会では、身近な問題提起として医療関係のユニフォームを取り上げ、参加型のファッションショーを設定してみましたので、ご参加いただければと存じます。

招待講演ではJAXA(日本宇宙航空研究開発機構)の的川先生に『「挑む」目標から「生きる」世界へー宇宙の新時代ー』と題して、上野動物園園長の福田先生にはパンダのお話を、NHK筋肉体操でおなじみの谷本先生には「人生110年時代を目指す～楽しく嬉しい体づくり～」等々、楽しく有意義なご講演をお願いしております。

市民公開講座では国立科学博物館の真鍋先生に「恐竜を知ることで自分をちょっと変えてみよう?」と題してお話を戴きます。